



豊橋市神野新田町  
 こん どう はる な  
 近藤 治奈 (23歳)さん



「まわりの人を笑顔にしたい」

治奈さんは内科の医院で医療事務の仕事をしています。「職場は自分と年が近い人ばかりで楽しく仕事をしています。患者さんが元気になってくれるとうれしいです」と話してくれました。「休日には志都呂のイオンや名古屋に行きます。服を買うのが好きで、買い物かストレス解消法です。コンサートやライブなどのイベントで東京に行った時も買い物をしてきます」

「買った時も買い物をしてきます」  
 友達は月に1回は会って、遊びに行ったりしています」と行動派の治奈さん。好きなものや聞くと「家で両親や兄が作っているミニトマトが大好きです。ミカンやリンゴも好きです。今はペットは飼っていませんが犬が好きなので、いつかは飼ってみたいですね。去年気に入って買

った愛車に毎日乗っています」  
 「モットーは何事も一生懸命にやることです。心が広くて、まわりの人を楽しませて笑顔にできるような人になりたいです」と治奈さん。理想の男性像を尋ねると「フィーリングが合う人がいいな。笑いのツボが合う人がいいです」と話してくれました。  
 「みなさんにミニトマト『あまえぎみ』をもっと食べて欲しいです」豊橋の農産物のPRも忘れない治奈さん。農家の娘の鏡ですね！

柿の種

※柿の種  
 「話のおつまみ」という意味の「ナー」です。

◎ SNSと手紙

先日、車で信号待ちをしていたら道沿いの家から出てきた郵便配達のパイクがおじぎをしながら前に入ってきた。「律儀な人だな」と思っていると信号が青になり、郵便屋さんは再びおじぎをしながら走り出した。礼儀正しい郵便屋さんに会って気分が良くなった。些細なことだが、なんだか少し幸せな気持ちになった。

郵便は街角のポストに手紙を投函すれば宛先の家の郵便受けまで配達してくれる。しかもハガキなら52円だ。沖縄から北海道までハガキを送っても52円。安い。紙切れ一枚とはいえ2000km以上離れたところに現物を送るのにこの値段、素晴らしいシステムだと思ふ。

師走になり年賀状を書いている人も多いだろう。現在ではコンピュータネットワークが発達して「今どき年賀状なんて書かない、電子メールやSNSで新年の挨拶は済ませます」という人も多いらしい。確かにSNSなどは言葉や情報を瞬時で送ることができて便利だが物を送ることはできない。

送る人が気持ちを入れて手紙を書く、そのハガキそのものが受け取る人の手元に届く。文字では表すことができない人の気持ちを伝えることができるのはハガキや手紙だけだ。しかもそれを届けるのは人の手。気持ちを届けることができるのは人だけなのである。つまりSNSなどは手紙の代わりにはならない、別物なのである。SNSと郵便、どちらもそれなりの長所がある。うまく使い分けられることができて本物の現代人なのだろう。とりあえず一年の始めの挨拶は気持ちを込めた年賀状でしりたいと思う。